

【3】研究開発単位II「SOZAN STEAM」

SOZAN STEAM は高校1年生に対して1単位で実施し「データサイエンス基礎」と「科学技術コミュニケーション」で構成する。

工業社会（Society3.0）の系統学習型である従来の教育（社会に適応できる人間像をベースに、知識習得を目的とする、教師が教育の主体となった暗記中心の学習）から、情報社会（Society4.0）や超スマート社会（Society5.0）に適合するSTEAM教育への流れを取り入れた新しい教育（社会を変革できる人間像を目指して、問題解決能力の習得を目的とする、学習者が主体となったプロジェクト学習型の学習モデル）を構築する。そのための基盤となる「知の技法」や「知の理論」の基礎を、文系教員と理系教員のティーム・ティーチングによる指導で習得することで、学際的アプローチが持つ相乗効果を最大化する。

この教科で習得した知識や技能を、課題研究「未来航路」に生かし、より多くのデータを活用した研究など、課題研究の質の向上に繋げる。

（1）目標

地域における身近な問題の中から自らの課題を見出し、社会の形成者としての在り方や生き方について考えるとともに、文理両方のアプローチから課題を探究する方法を習得する。

（2）「データサイエンス基礎」実施概要

課題研究に活用できるように、身近なデータを用いてデータの意味、吟味、分析方法などの実習を行う。主な学習内容としては「データ解析基礎」と「*RESAS（地域経済分析システム）」である。

*RESAS（リーサス）

地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供しているシステム。自治体職員の方や、地域の活性化に関心を持つ様々な分野の方によって、効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く利用されている。

（3）「科学技術コミュニケーション」実施概要

2～3人の教員が1つのチームとなり、それぞれの教科の専門性・趣味・特技を生かした授業を展開する。教科横断型の授業を通して、生徒に学問のおもしろさを伝えることを目指す。全7講座を設定しており（1講座につき3時間）、生徒はこれらの講座をクラス単位で順番に受講する。

（4）学習評価

評価の観点について次のように目標、内容を定め観点別学習状況評価を実施した。

① 観点別学習状況評価の各観点について

「知識・技能」

学習課題に関する幅広い知識を獲得し、課題発見や課題を探究するために必要な知識や技能を身に付けている。

「思考・判断・表現」

課題を幅広い視点で捉え、総合的に思考し的確に表現している。

「主体的に学習に取り組む態度」

課題や事象に徹底的に向き合い、自己の学習調整を行いながら主体的に取り組もうとしている。

② 評価基準

「A」十分満足できる 「B」おおむね満足できる 「C」努力を要する